マリー狂乱

本所は大川端の往立住仕の葉と蔭めしい標札おつと西洋門の前で車を乗棄て、俥[illegible]と門内へ進み入つと異色の美人がある。年頃は二十一二でもあらう。髪こそ紅けれ、眼こそ

碧なれ、天の成せる霧質は霧雨のレース越しに顕著で、眼鼻立ち姿し、仕草の迫のおちやもけそら

もない程であるが、只仕ら而ど淋しい。眼と注瞳らしき憂で、細そりしこ[illegible]肩の線と結ひの

空ゝ深うてゐる。

目陽しの

の植込みと[illegible]匹[illegible]

十ノ廿 松屋製

處が車寄せで、掃いたやうに清潔に掃除が行届いてゐて、塵一つとまらない。女は臆面もなく徐々と階段を上つて、呼鈴の釦を徐と推すと、何處でか奥まつた所でチリヽンと鈴が鳴る。

待つ間程なく出て来たのは袴がゝりで羽織と

若めの老人。内からガラス戸を開けて、怪訝な顔でお辞儀をするかたはら、あでやかな声で佛蘭西語を操つて、從五位様お出でならとお取次試しさき子細あつて參つた君、お取次をと云へど、何の事とものみこみ解えぬ様で、逃ぐるが如くすべつ

入らぬ。

とぢかりして再び出て来しのを見れば、今度は制服めくものと若い男を連れて来た。

コスメチックやらなにやらコテ〳〵と身持のわるさうなタンヂーざが、それが女の前へ来て、恭しく、赤面して、絶えず祝つて

Visitin'visitors

兼洗 Bricount が Ascotといふ。お嬢様方お客様と称して御帰りを待ちまをうと、彼物の実語でかへさず、取次人困じと称で、

勢らく仕やら相談した後、遂に帰らしい

のが、なりく、Go home, again come,

可なり Kome と称する。曰く。可笑しな文句など、意味を人々に悟らせて待ちぶせさいといふのらしいゆえ、此方は少しばかりそれ、

（貴方がこれ）

そんな事をお拵用と愛嬌はよりませぬ、止みぬい仔細は小ぜこと、お帰りを待つてゐ

是非ともお見通りなしさいのでございます、此方ども家閑をございませう、お通し下さいましと、唱へ天代が壊れうとも、動きませぬと心と指示と而仔に、耶次を捜索し、尚一つ事を繰返しく言へ（ふのみ）で埒明かず、お